

令和５年度農林水産省行政事業レビュー（公開プロセス）の結果
農業競争力強化基盤整備事業
＜取りまとめコメント＞

事業の課題や問題点	事業の改善の手法や見直しの方向性
● 長期アウトカムにおける指標４（全耕地面積の担い手シェア 80%）は、指標１（基盤整備完了地区における担い手への農地集積率）にある基盤整備完了地域の数はかなり多くしなければ（全地域に近く）実現し得ない。長期アウトカムをどのように設定したのか、これまでの事業経験からの実情と政策的必要性の双方を考慮して再検討することが求められる。	● 長期・中期アウトカムにロジックがつながり、また、課題が見えるような指標を追加していただくことが望まれるとともに、現在の指標４が十分な議論を経て決定されているかを確認し、改めて指標値を設定し、その実現に必要な事業規模や優先度を検討いただきたい。
● アウトカムに関して、短期から長期へのつながりが分かりにくいので適切な中期が必要だと思われる。	● 参考資料にあるロジックモデル（試行版）では複数のアウトカムを提示して頂いて内容は分かるので、今後の課題として定量的指標を模索する必要があるのではないか。
● 中期アウトカム、本事業における長期アウトカムの設定	● アウトプット：整備した面積ではなく、効率化された状況を示す指標とする。 中期アウトカム：労働生産性の変化をきちんと見るべき。 長期アウトカム：本事業としての目指すべき方向性を示すものとすべき。
● 本事業の実施地域は農地集約において先進的な地域であり、現状の長期アウトカム（集積８割）を前提とするのであれば、短期アウトカムの目標値はそれより高くすべきではないか。	● 本事業は事業要件として集約が必須であり、これをアウトカムにするかも含めて検討すべき。
● 短期アウトカムから長期アウトカムまでの間の中期アウトカムの設定	● 中期アウトカムの指標を考えると同時に、当該アウトカムに向けた農水省や他省庁で行われている施策が何であるかも相互に意識し、連携して推進できているか等、横串を刺してフォローし、ボトルネックとなっていることの解消を相互に管理できるようにしてはどうか。
	● 効果発現の経路を示す上で、本事業の場合、中期アウトカムの書き込みは必須である。レビューシートにもしかるべき反映をされたい。

事業の課題や問題点	事業の改善の手法や見直しの方向性
● 本年のレビューでは、政府全体で示された「政策効果の発現経路と目標をロジカルに説明し、事後的にデータに基づいて見直す」ことができるよう、やりとりを進めてきたが、提出されたロジックモデル（試行版）、まとめ版としての事業のロジックモデル、その検討結果を踏まえたレビューシートが示された。農政の難しさをよく踏まえつつ、効果発現の経路をロジカルに精査したもので高く評価したい。	● 算出しやすいKPIに寄せて、自らの様々な工夫や努力を埋没化させてしまうレビューシートが多い中、農政の現場の実態を踏まえて精細なロジックモデルの取組は極めて有意義である。自らの工夫や努力をしっかりと反映させるロジックモデル、レビューシート作成のための一つの取組の方向性であり、これをお手本に、省内全体でも、それぞれの内容の改善に取り組まれない。
● 効果発現の経路がここまで精緻化できれば、政策効果の発現に当たってのボトルネックも明確化できるのではないかと。それぞれの立地や状況によって異なるだろうが、多くの場合、人（担い手）なのではないかと考えられる。	● ボトルネックの型のパターンを見出した上で、次なる改善策が次年度の事業や予算要求に反映されると（他の事業とのさらなる連携になるのかもしれないが）、あるべきPDCAになっていくのではないかと。大いに期待したい。
● 長期アウトカムを見込みながら、短期アウトカムに該当する施策を計画段階で、的確かつ効率的・効果的に立案する必要があるところ、高齢な事業者や相続問題等、多様な権利者・利害関係者を取りまとめるに当たり難しさを伴う、という課題がある。	● 土地改良区・中間管理機構において、計画立案・管理において、キーマンとして置くべきものや、利害調整に当たって効果的であったこと等の好事例や、苦労した事例でも学びがあったことについて取りまとめたもの（アクションリサーチ等）を、水平展開する仕組みがあってもよいのではないかと。
● 地域の意見をまとめることができるリーダーの存在が必須と考えられる。当事業においても、様々な機関の協力により工夫がなされているが、担い手の中でのリーダーの存在が特に重要と考える。	● 他の事業との相乗効果を図る工夫が必要と考える。